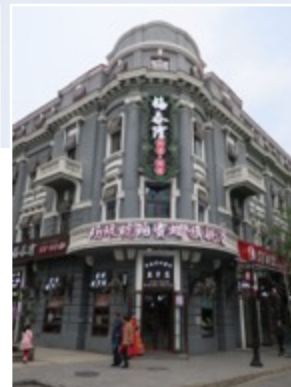


極東の街ハルビンを埋めつくした西欧の古典建築たち

1920年代、極東のハルビンで西欧文化が花ひらきました。街を築いたロシアをはじめ、欧米列強、日本や中国の資本も進出し、数多くの西欧古典建築が林立したのです。ペディメント(洋風破風)、コラム(古典的円柱)、アーチ、ドーム、縦長の観音開き窓、真鍮手摺りのテラスなど、様々な西洋の古典装飾を備えた石造建築たちです。

その中心が「キタイスカヤ」、現在の中央大街です。

目につくのは、シンメトリーのコーナーファサード。コーナーに正面玄関を設け、上部にテラス、真鍮の手摺りがデザイン作法のようです。両脇には縦長の窓がリズムカルに並び、連続した庇が水平ラインを強調しています。ほぼ全ての建物が現存して、綺麗に補修されていました。



帝政ロシアのアジア進出拠点
ハルビン 哈爾濱

まちあるきの考古学

左は、日本資本の百貨店の旧松浦洋行ビル。とても上品で柔らかなデザインは秀逸。テラス軒裏まで緩やかなカーブをまとう、通りを歩く人々の視線を意識したデザインです。

右は、香港上海銀行ハルビン支店。香港に本店をおくイギリス資本の植民地銀行です。その大きさに加えて、無骨で角ばったディテールが威圧感を与えています。



ユーラシア大陸を越えてきた アール・ヌーボー

かつての国際都市ハルビンに現存する多様な建築様式のなかで、ひときわ目を引くのが、「アールヌーボー」と「中華バロック」です。

アールヌーボーは19世紀末にフランスで起きた新たな芸術運動で生まれた様式で、しなやかな植物性の曲線を多用しているのが特徴です。西欧発祥のアールヌーボーが、ユーラシア大陸を越えて、極東ハルビンの地で花開いたのです。

その担い手は東清鉄道でした。いまも、アールヌーボーそのものといえる東清鉄道の社宅が街中に数多く残っています。

西欧では、1900年前後に花開いた一過性の強い、しかし、その斬新さゆえに注目を集めた建築様式でしたが、当時のハルビンでは、政府機関といえる東清鉄道のあらゆる施設、ハルビン駅から本社、公館、学校、工場にもアールヌーボー様式が取り入れられました。建築史的にみて得意な現象だといえます。

中国職人たちの看板建築 —傳家甸の中華バロック—

かつて「傳家甸」と呼ばれた地域は、ロシアの鉄道附属地に接した中国商人の作った街です。街並みは西欧風ながら、そのストリートファサードはかなり不気味です。それは、西欧建築に間近で接した市井の中国職人が、見よう見まねで模倣したものです。

例えば、円柱に注目してみます。柱礎には団子、柱身にはらせん状の彫刻、柱頭には皮の剥けた芯のようなものが…古典円柱の装飾は構造上の必然をデザイン表現したものです。それを全く無視したデザインは、建築史的に説明のつかない様式といえます。一見するとバロック建築に似ていることから、これらは「中華バロック」と呼ばれます。



円柱装飾が不気味なコーナーファサード



旧東清鉄道社宅



まるでパリの外口のような



旧東清鉄道管理局もアールヌーボーの装飾を纏う



煉瓦造なのにファサードだけが擬似西欧古典建築

少しだけ歴史と地理の話

ハルビンはロシアのアジア南下政策の名残り

松花江と東清鉄道のクロスポイントに立地

ハルビンは、満州平原を横切る東清鉄道と大河松花江の交わる、陸運と水運の結節点にあります。

西欧列強が競ってアジアに進出した時代。

大きく出遅れた帝政ロシアは、劣勢を挽回するために、海路を抑えた大英帝国に対抗して、陸路によるアジア進出を目論み、広大なシベリア平原を横断する鉄道を日本海沿いのウラジオストックまで敷設しました。

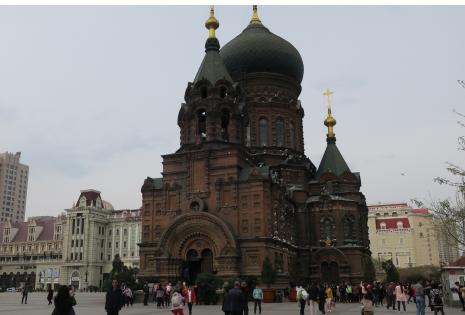
その後、日清戦争の混乱に乗じて、満州平原をショートカットする東清鉄道を敷設し、ロシアはアジア進出の足掛かりを手に入れます。

そして、大英帝国の国際都市、香港や上海に対抗して、ロシアは満州平原の物流クロスポイントに極東進出の拠点ハルビンを建設するのです。

河岸段丘上の「泰家崗」とよばれる場所に鉄道駅と官庁街をおき、松花江河岸に港を築造、その間の湿地帯は「埠頭区」とよばれ、河岸港と鉄道駅を結ぶ運搬路周辺はやがて商業地になりました。

鉄道駅付近には、東清鉄道管理局や社宅、中央寺院などが建築され、運搬路は「キタイスカヤ（現中央大街）」とよばれる繁華街に発展します。

ロシアはハルビンを拠点に、南満州鉄道を新たに敷設して南下し、遼東半島の大連、そして朝鮮半島へと食指を伸ばします。その動きは日本への大きな圧力となり、やがて日露戦争へと向かうのです。



ソフィスカヤ寺院（旧ロシア正教会）

赤煉瓦むき出しの外壁、ねぎ坊主のドームなど、ロシア建築特有のデザインが圧倒的な存在感を与えています。



松花江の河岸港跡

中国とロシアの国境、黒龍江（アムール川）の支流で、満州平原の水運を担いました。遠くの鉄橋が旧東清鉄道。



ハルビンの一般的な街並み

中国東北地方によくみられる中層のガラス室内テラスのある集合住宅が主流です。一階は半地下で2階が店舗。



出典：図説「満州」都市物語

まちあるきの考古学